

# 2001年宇宙の旅 (1968)

2001: A SPACE ODYSSEY

**メディア** 映画

**ジャンル** S F

**製作国** アメリカ／イギリス

**色彩** Color

**時間** 149分

**初公開日** 1968/04/11

**公開情報** MGM

1978/10 [MGM=C I C]

**リバイバル** 1995/02 [ヘラルド]

2018/10/19 [ワーナー] (IMAX)

## 【解説】

公開当時は賛否両論を呼んだものの、今や映画史上のベストテンに必ず入る、殿堂入りの名作S F。人類の夜明けから月面、そして木星への旅を通し、謎の石版“モノリス”と知的生命体の接触を描く。一応のストーリーはあるが、映画はその物語性を放棄し、徹底した映像体験で構築されている。猿人の眼前に屹立するモノリス、それに触れた猿人が骨を武器として用い他の猿人を打ち殺し、空高く放り投げられた骨は一瞬にして宇宙船へと変わる——その、史上最も時空を超えたジャンプ・カットを後に、舞台は宇宙へ移行する。『美しき青きドナウ』や『ツアラトゥストラはかく語りき』といったクラシックをBGMに、悠々と描き出される未来のイメージ。そして、木星探査船ディスカバリー号での淡々とした日常業務。やがてコンピュータHAL 9000に異変が起こり、ボウマン船長は光り渦巻くスター・ゲイトをくぐり抜けスター・チャイルドとして転生する……。訳知り顔で、作品の根底に眠る意味を聞く必要はない。座して体験せよ、そういうフィルムなのだ。

なお上映時間については冒頭の序曲、途中休憩のインターミッション、そしてエンドクレジット以降の終曲の全てを含めた上映時間で、一部のVHSではインターミッション部をカットした139分の商品も存在する。また、50周年記念となる18年にはワーナー・ブラザースがクリストファー・ノーラン監督監修のもとオリジナル・カメラネガからデジタル処理を介すことなく、フォトケミカル工程のみによる70mmニュープリントの作成を行い第71回カンヌ国際映画祭でプレミア上映され、その後世界各地で巡回上映が行われた。その際、68年の公開当時の映像と音を忠実に再現すべく、当時と同じ6チャンネルサウンド、上映前、インターミッション、終映時の音楽も完全再現が試みられた。日本でも18年10月に国立映画アーカイブにて、「世界視聴覚遺産の日」の特別記念イベントとして上映が実現。

## 【クレジット】

**監督** 斯坦リー・キューブリック Stanley Kubrick

**製作** 斯坦リー・キューブリック Stanley Kubrick

**原作** アーサー・C・クラーク Arthur C. Clarke

**脚本** 斯坦リー・キューブリック Stanley Kubrick

アーサー・C・クラーク Arthur C. Clarke

**撮影** ジェフリー・アンスワース Geoffrey Unsworth

ジョン・オルコット John Alcott

**特撮** ダグラス・特朗ブル Douglas Trumbull

**編集** レイ・ラヴジョイ Ray Lovejoy

**出演** ケア・デュリア Keir Dullea デヴィッド・ボウマン

ゲイリー・ロックウッド Gary Lockwood フランク・ペール

ウィリアム・シルヴェスター	William Sylvester	ヘイウッド・R・フロイド
ダニエル・リクター	Daniel Richter	月の監視員
レナード・ロシター	Leonard Rossiter	アンドレイ・スミスロフ
マーガレット・タイザック	Margaret Tyzack	エレーナ
ロバート・ビーティ	Robert Beatty	ラルフ・ハルヴォーセン
ショーン・サリヴァン	Sean Sullivan	ビル・マイケルズ
アラン・ギフォード	Alan Gifford	フランクの父
アン・ギリス	Ann Gillis	フランクの母
エド・ビショップ	Ed Bishop	
ケヴィン・スコット		ミラー
声の出演 ダグラス・レイン	Douglas Rain	HAL 9000